

プロロジス、物流施設屋根面の太陽光発電が 目標値の半分、500MW に到達

～クリーンエネルギーで入居カスタマーや地域コミュニティに貢献～

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(NYSE:PLD、日本本社：東京都千代田区丸の内)は、物流施設屋根面に設置した太陽光発電と蓄電池の合計出力が500MW になったことを発表しました。同社は、2025 年までに太陽光発電と蓄電池を活用した発電量として1GW の目標を掲げており、この度、目標値の半分に到達しました。

プロロジスは 2005 年に物流施設への太陽光発電設備の設置を開始し、この度カリフォルニア州オントリオに 1MW の設備を設置したことで 500MW に到達しました。500MW の太陽光発電は、非営利組織 [Solar Energy Industries Association](#) (SEIA)によれば、米国の約 86,500 世帯分の電力使用量に相当します。

プロロジスは 2022 年に、2040 年までのバリューチェーン全体でのゼットゼロ達成を目標として掲げており、中間目標の一つとして、2025 年までに太陽光発電と蓄電池の合計出力として1GW の目標を設定しています。SEIA の調査によれば、オンサイトの太陽光発電の導入量において、現在プロロジスは全米で第 2 位です。プロロジスは世界 19 か国に 1 億 1,400 万㎡の先進的物流施設を運営しており、グローバル全体では、2022 年 9 月時点の 378MW の太陽光発電能力に対して 32%の増加となっています。また、施設運営面積の規模の大きさから、長期的な太陽光発電と蓄電池の導入規模は最大 6GW と想定しています。

ネットゼロを達成するにあたり、太陽光発電は中心的な役割を果たします。物流施設屋根面の太陽光発電設備の増加によって、クリーンエネルギーへの移行が必要な入居カスタマーからのニーズに応え、地域の脱炭素化に貢献することが可能です。

プロロジスの太陽光発電による電力の一部は、地域の電力会社を通して、一般送配電網に直接供給され、地域コミュニティの温室効果ガス削減と電力供給の安定化に貢献します。事例として、カリフォルニア州の Clean Power Alliance(CPA)とのパートナーシップにより、運営中の物流施設に太陽光発電設備を設置し、CPA に再生可能エネルギーを供給する予定です。これによって、これまでは受電において不利だった地域コミュニティに、固定価格での電気料金とクリーンエネルギーを提供することができます。プロロジスは、同様のプロジェクトをイリノイ、ワシントン州、ニューヨーク、ニュージャージーにおいて展開しています。

プロロジス・エッセンシャルズは、エネルギー関連機器の更新・改良や、エネルギーの供給マネジメント、スマートメーター、蓄電、[プロロジス・モビリティ](#)でのEV商用車の充電をはじめとするエネルギーとサステナビリティ領域のサービスを提供しています。

プロロジスは 2018 年に、SBTi*が排出削減目標を認定した初の物流 REIT となりました。同社は 2022 年に、2040 年までのネットゼロ達成を目標として掲げ、SBTi のレビューを受けています。

*SBTiは、企業における温室効果ガス排出削減目標について、科学的知見と整合した削減目標を設定・推進することを目的としたイニシアティブであり、パリ協定に沿った目標策定のグローバル・スタンダードとなっています。WWF(世界自然保護基金)やCDP(旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト、グローバルな環境課題に取り組むNGO)、WRI(世界資源研究所)、UNGC(国連グローバル・コンパクト)によって、目標を設定する企業の認定が行われています。

※ 本資料は2023年12月6日(現地時間)に世界本社で発表したリリースの抄訳です。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム
https://ma.prologis.co.jp/form_inquiry_media